

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/1階、2階)**

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	令和3年4月10日	評価結果市町村受理日	令和3年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪4階		
訪問調査日	令和3年6月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

各入居者様のニーズに対応出来るように、居室担当制としており担当が希望や思いをくみ取り可能な限り対応出来るようにしています。  
 入居者様に対する敬う気持ちを持ち、ケアに対するストレスをスタッフ会議等で話し合い、日々笑顔で対応できるように努める努力を目指しています。  
 新型コロナウイルス感染に伴い施設内でのレクリエーションなどを増やしADL低下の予防に努めている

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「今までの暮らしが、この地域で普通に過ごせる、そんなグループホーム」と事業所独自で作上げた理念を、玄関に掲示している。コロナ禍の現在、家族など外部の人との面接は玄関で行い、玄関に掲げた理念を外部的人や家族等と共有できている。利用者とは日ごろの会話の中で、家族等とは電話やメールを利用して意見を聞き取る機会を心がけ、爪切りの方法、水分補給について、入浴介助等について話し合いケアプランに活かしている。コロナ禍でも車で尼崎のバラ園や農場公園にドライブに出かけ、車窓からの景色を楽しんだり職員が紙芝居や劇を演じる等工夫をしている。共用空間は、明るく清掃が行き届き空気清浄機やオゾン装置が置かれコロナ感染予防にも配慮している。この事業所のコンセプトは、「皆が明るいこと、取り敢えず笑う」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、EV横に提示している	「通じあい、信じあえる心(こころ)を育み、健やかな身体(からだ)を維持することを目指します。」の法人の理念に加えて、「今までの暮らしが、この地域で普通に過ごせる、そんなグループホーム」と事業所独自で作り上げた理念を、玄関に掲示している。家族など外部の人との面接は玄関で行っている。職員は出勤時、理念を確認して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防に為交流が中々難しい	コロナ禍以前は事業所の夏祭りに、近隣の住民に参加を呼び掛け、高齢者介護の相談にのったり、自治会の一員として公園の清掃活動を行っていた。現在は車でドライブし、中から挨拶し少しでも関係を保つように努力している。感染予防に心がけながら、近隣に住む職員の子供や孫の訪問で和む機会も作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通して、認知症の理解やどなたでも相談できるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族様参加され、現況や計画、事故報告など説明し出席者からの、意見交換など頂き運営に反映している	運営推進会議は、利用者家族、自治会長、地域包括支援センター職員、事業所職員、等が参加して、隔月に開催していたが、コロナ禍以後は、大阪市で示された様式に則り紙面開催を行っている。事業所の運営状況(研修内容、事故発生件数・内容、苦情件数及び内容、等)を報告して意見を求め、出された意見を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは連絡を密にとり双方の協力関係を築けるように築けるように取り組んでいる	コロナ禍以前はグループホーム連絡会が定期的に行われていたが、現在は中断している。淀川区役所の健康福祉課担当窓口へは、都度訪問や電話などで、連絡を密に取り合っている。9月の末に行政と医師会の共催で、成年後見制度の説明会があり、それには参加予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員において理解は実践している。毎月のスタッフ会議などで話し合いストレスを溜めないように早期発見に心掛けている 玄関の施錠は、安全面を最優先に考え入居者様及び家族様にも理解頂いている	身体拘束等適正化委員会を、3ヶ月に1回定期的に開催している。また、適正化のための指針は法人で作成し、全職員が理解し実践している。研修会は2ヶ月に一度スタッフ会議の中で行っている。気の付いた事、気になる事等を、アンケート形式の匿名で取り改善するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染の為外部研修が難しく定期的に、内部研修にて重要視話し合うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる入居者様、家族様には助言を行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が個別に説明し、理解納得が出来るように丁寧に説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話・メールで、個別に話せる機会を設けケアプランに活かしている 運営推進会議や行事の際に要望、苦情を頂けるように努めている	利用者とは日ごろの会話の中で、家族等とは電話やメールを利用して意見を聞き取る機会とし、爪切りの方法、水分補給について、入浴介助等について話し合い、それをケアプランに活かしている。利用者には主として、外出や行事楽しみごと等の要望があり、可能な限り応えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りで常に情報を共有に努めている。 毎月アンケート配布にてスタッフ会議で意見や提案を機会を持っている	管理者の発案で、月に一度のスタッフ会議には、職員全員がアンケートを匿名で提出するようにしている。利用者の対応や介護についての疑問など意見が出てきて話し合いが出来、入浴介助等については職員全員が共有できるシステムになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人的な意見や要望など常に、代表者に伝える機会を持っている 不安定材料はなるべく早く解決できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期的に内部研修を行っている。内容は全スタッフ回覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会新型コロナウイルス感染の為に開催出来ない、他施設とは電話等で意見交換している 法人内でもリモートで、情報交換を行っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、希望や思いをくみ取り不安要素の解決に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	密に連絡を取り、不安解消に努め、関係性を深めるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の希望、能力、意思をくみ取り他のサービスも対応出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を保持できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係の継続や修復が出来るように、間に入り調整を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染の為交流は難しい	コロナ禍以前は、スーパーマーケットやコンビニエンスストアへ出掛けて、近隣の方々と挨拶をし合っていた。現在は、居室担当と共に、近くにある神社や公園へ出掛けるようにしている。また、家族等とは面会室を設けコロナ対策に配慮しながら、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを優先にして、職員が間に入り積極的に交流の場を設けるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、相談や支援に応じる旨を伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々のニーズが把握できるように努め、アセスメント、ケアプラン、モニタリングを行い、サービスに反映させている	一人ひとりの日々の暮らし方について、利用者に寄り添って聞き出している。「外出がしたい」「お手伝いをさせてほしい」等の希望があり、調理、洗い物、花の水やり等をしている。それぞれ得意の分野を活かせるように検討をしケアプランに入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様との会話の中からの情報や ヒント その他、関係者からの情報		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ずっと車椅子で座りっぱなしになっていないか？疲れないか？など把握している。 カンファレンスにて検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族へ希望や何か気になる点を伺うようにしている(郵送やメール、面会時に伺う)カンファレンスにて家族の意見も参考に話し合い介護計画を作成している	介護計画は、長期目標が12ヶ月、短期目標が6ヶ月、モニタリングは3カ月毎に行っている。利用者とは日々の会話の中から要望を聞き出し、家族とはメールや電話等、来訪の都度聞くようにしている。それを申し送りノートに書きとめ全職員が共有し介護計画に活かしている。しかし、介護計画に反映させている事が家族に伝わっていない。	介護計画に利用者の様子を入れて作成している事はもとより、作成前に家族への了解を求め家族の同意を基に作成する事が必要である。事業所は家族に理解し納得してもらう様に説明を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実行やその状況。又、状態変化や気づきなど介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望やこまっている事を伺い、その方に合った対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方、民生委員に定期的に地域の催し物など知らせて頂いているが新型コロナウイルス感染の為開催が出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医・家族様・事業所と面談を実施し棒や意向を伺い納得した医療を受けられる支援をしている	入居時に利用者や家族と話し合い、全員が協力医としている。内科の訪問診療は月2回・歯科は希望者のみ月2回訪問診療を受けている。その他の医療機関には職員が付き添い、以前からの疾病の通院は、家族の付き添いを基本としている。都合では管理者が付き添っている。5名は鍼灸医のマッサージを受けている。24時間医療連携がとられ看護師の健康管理も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回勤務。 かかりつけ医の訪問看護など週3回来られ、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と退院調整を、退院前にカンファレンス等で状態の変化などに対して指導を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・家族様・事業所での面談を早い段階で行い家族様の希望や意向、医師からの確認を行い終末期のあり方について話し合っている かかりつけ医からも積極的に面談の希望がある	契約時に重度化や終末期の対応を説明し指針の確認書を作成している。利用者の体調に変化があれば主治医より家族に説明し終末期の対応の確認書を交わし、家族の希望や意向を取り入れてカンファレンスを行い支援に取り組んでいる。職員研修は年2回行っている。利用者のその都度の状態を話し合い支援している。近年2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	偶数月にミニ災害(勉強会)を実施している 災害担当を決めスタッフ中心で行っている 消防避難訓練・点検の実施	マニュアル・連絡網・ハザードマップの確認をし、年2回春(自主訓練)・秋(10月)は近所に声をかけての避難訓練を予定している。家族に災害時の避難の対応を説明している。偶数月に大阪市の水害マップを参考に避難のあり方・安全など災害時の勉強会を開催している。非常物品としておかゆ・カンパン・レトルト食品・ランタン・懐中電灯・カセットコンロを用意し定期的に確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正の算定に伴い、言葉からの制限など振り返り意識している	年間研修で人権・個人情報・接遇等を取り入れ、人生経験豊富な利用者の尊厳やプライバシー・羞恥心や人格を損なわない様言葉遣いに気を付けてケアに取り組んでいる。2か月に1度研修の機会を設け確認している。身だしなみ等その人らしく自己決定出来る様に支援している。入室時のノックや排泄時の声掛け等配慮し、個人情報の書類は施錠できるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制でケアプランのモニタリング(評価表)を記載するなど、担当制とした形をとっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日入居者全員の希望通りもペースには対応出来ていないが、可能な曜日を伝えなるべく対応出来るように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居様が多く、お洒落に気を使われる入居様が多く、服の色季節に合った服選びなど楽しまれている様子。又、自己にてお洒落が出来ない方は職員が、いい香りのハンドクリームなどでマッサージ行ったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどにも参加して頂き、食事の楽しみを一緒にして頂く時もある。又、手作りのおやつ、お好み焼きなど職員と一緒にいる事がある	食材業者より栄養管理した食材を購入し調理担当職員が昼食・夕食を調理して提供し、利用者は盛り付けに参加し、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。朝食は職員が作っている。月に1度、利用者の好みを聞いてイベント食でお寿司や釜めしをとったりファーストフードを利用し、また1週間に1度のお好み焼きやたこ焼き・フルーチェ等のおやつ作りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活の場では体重管理、摂取量分析などにて状態を管理(かかりつけ医の定期的な採血から参考にする場合もある)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かしてトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し声掛けをしてトイレ誘導し、トイレでの排泄の支援をしている。排泄の時間に声掛けをして行く中で布パンになり自立になった利用者がある。夜間はポータブルトイレを利用している利用者や、定時見回りをしながら利用者のリズムや様子を見ながら安眠を妨げないよう声掛けをしてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との相談で排便コントロールを行っている。 水分やヨーグルトなど個々の対応 腹部マッサージなど対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所で決めた曜日になっているが、体調など配慮にて固定ではなく、入居様の希望に沿っての対応心掛けている	入浴は週3回を基本に午前中に入っているが、利用者の都合で午後に入浴している人もおり、拒否する人には日を変えたり清拭や足浴にして柔軟に対応して清潔保持に努めている。入浴剤やゆず湯などで楽しく入浴していて、保湿剤や香りの対応をしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間を設け、高齢者の状態から、昼寝が必要ならば臥床時間を作る。 馴染みの枕・布団なども家族様にも協力して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までは理解できていないが、体調変化など、かかりつけ医と相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じて、洗濯物干す、入れる、畳む、新聞を取り込むなど、役割を設け		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の希望に添えないが定期的に、買い物や美容室、外食、季節に合った外出など希望に添えるように努めている	日常的に近くの神社や公園に散歩に出かけ気分転換をしている。コロナ禍では、車で尼崎のバラ園や農場公園にドライブに出かけ車窓からの景色を楽しんだり、職員が紙芝居や劇を演じる等、楽める工夫をしている。以前は利用者の希望で居室担当職員と電車で京都や奈良に出かける個別支援をしていた。今後も希望に沿った支援をする予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々の買い物などで使用できる金額は家族様と相談して事業所管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛ける、掛かってくるなどは、対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、共有部を清潔に保つように努めている 普通の暮らしを意識している	共用空間は明るく清掃していて空気清浄機やオゾン装置が置かれ空調に配慮している。テーブルやソファ・テレビやカセットデッキが置かれ食事時にクラシックの音楽が流され気分よく居心地よい工夫をしている。壁に利用者の習字や写真・カレンダーが貼られ皆で作った季節の作品を貼り、今は紅葉の作品を制作中で季節感を味わえる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内を自由に過ごされている。 馴染みの入居者様同士、居室にてお茶を飲みながら談笑されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のお部屋に近い暮らしを、家族様に協力して頂き馴染みの物・お好きな色など個々に個性のある居室になっている	居室入り口に表札を掲げてあり、利用者はテレビ・タンス・テーブル等使い慣れた物やマッサージ機を持ち込み写真やカレンダーを貼りぬいぐるみを置いている。DVDを持ち込み韓流ドラマを見ている人や編み物を持ってきている利用者等その人らしい部屋づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に工夫努めている、危険と想定する箇所の改善などその都度検討して対応している		